

## 5) 事例と活動を通して

### 事例① 「近所でごみがたまっている家を見つけた」

⇒地域住民と関係機関で片付けを行い、地域による見守りにつながったケース

#### | 相談の入口 ほっとネット推進員から

- ・近所の一人暮らし高齢者Aさんの家の中を偶然見たらごみ袋だらけだった。このままの生活が続くのは心配。どうすればいいのだろうか。

#### | 地域福祉コーディネーターの動き

- ・地域包括支援センターに確認し、介護保険等のサービスは使っていないことがわかる。
- ・Aさん宅を訪問し状況を確認する。本人から近隣と関わって行きたいという気持ちを確認する。
- ・ほっとネット推進員、ふれあいのまちづくり活動者、関係機関（地域包括支援センター・ごみ減量推進課）と会議を開く。

#### (会議の結果)

- ・Aさんと関わりを作るために、一緒に家の片付けを行う。
- ・必要なサービスを利用できるよう、地域包括支援センターや、ケアマネジャーがAさんに働きかけをする。

#### (Aさん、地域住民、関係機関で片付けを実施。その後)

- ・住民が行うサロンへの参加の声かけをする。
- ・ほっとネット推進員による見守り活動、及び自主グループによる訪問傾聴活動を依頼。
- ・地域福祉コーディネーターを中心に、専門機関やほっとネット推進員等と日々の情報交換をする。

#### | ほっとネット推進員の動き



- |             |   |
|-------------|---|
| <b>みつける</b> | ・近所の気になる人を見つける  |
| <b>つなげる</b> | ・地域福祉コーディネーターに相談<br>・関係機関との会議に参加する。   |
| <b>うごく</b>  | ・家の片付けに参加、Aさんとの関係作りをする。<br>・自宅への訪問や電気がついているかの確認等の見守り活動を行う。<br>・自主グループによる訪問で、Aさんの話を傾聴する。 |

#### | その後のAさん

- ・専門機関も関わりを強め、次第にサービスが利用できるようになった。
- ・様々な人々の関わりを受け入れながら、自分のペースで生活。
- ・「このまちに住み続けたい」との思いが実現。安心した生活をサポートするつながりができる。